

## 第6章 候補地の評価結果

---

専門委員会で仮に設定した施設構造図を基に第4章に示した評価項目、評価方法、評価基準を用いて各候補地の評価を実施した。表 6-1～表 6-6 に各候補地の評価結果を、表 6-7、表 6-8 に評価結果の一覧表を示す。

表 6-1 候補地①（長野市中条日高：入日）の評価結果

評価項目		評価	評価の内容
土地条件	1	土地利用	B 一部、田や畑に利用有
	2	土地所有	C 228 筆
自然条件	3	地形の状況	C 滑落崖を含む緩斜面は、空中写真判読から複数の地すべりの分布が想定される
	4	地質の状況	C 滑落崖を含む緩斜面は、湿地やため池を含む平坦地の状況から地すべり移動体の可能性が想定され、地下水も高いことが想定される
	5	流域面積	A 1.8 倍
	6	希少動植物の確認状況	C 【文献調査】 動物:43 種、植物:79 種 植物群落:5 群落 【現地調査】 動物:トウキョウダルマガエル、コオイムシ、ゲンゴロウ科の一種 植物:シヤジクモ科の一種
7	自然の改変度	C 植生自然度(7~10):71% 候補地内は、落葉広葉樹林が大部分を占めており一部に耕作放棄地やスギ林が存在する	
環境条件	8	水源への影響	A 候補地内またはその 1km 以内の下流域で水道用水や農業用水として取水していない
	9	放流先の状況	B 供用区域まで 1km 圏内
	10	生活環境への影響	B 周辺の建物数:164 棟
	11	沿道への影響	A 0.6%
建設条件	12	防災に係る法規制の該当状況	B 地すべり危険箇所に該当
	13	農用地区域の該当状況	C 農用地区域を含む
運搬条件	14	運搬効率	A 2,900 千t・km
	15	積雪の状況	A 22,176m <sup>3</sup> ・日
施設配置計画条件	16	土量バランス	C 残土量:388,300m <sup>3</sup>
	17	建設工事の規模	B 切土:425,000m <sup>3</sup> 盛土:33,000m <sup>3</sup> 残土:388,300m <sup>3</sup> 土工量:423,150m <sup>3</sup> ※土の締固め率 0.9 とする ※土工量は((切土量+盛土量+残土量)/2) + 不足土量
	18	立地特色・防災対策	C 洪水対策:該当 斜面崩壊対策:該当 配置上の工夫:該当 構造上の留意点:該当 地下水対策:-
	19	処理水放流管等施設の整備	A 100m(下水放流)
	20	跡地の有効利用	C 0.63ha
経済条件	21	施設整備費・維持管理費	C 工事費 : 82.3 億円 (51,700 円/m <sup>3</sup> ) 維持管理費: 28.0 億円 (30 年間) 計 : 110.3 億円
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地条件:特になし</li> <li>・自然条件:処分場を建設することによって地形変状によるリスクが解消または低減する</li> <li>・環境条件:特になし</li> <li>・建設条件:地すべり危険個所に該当、農用地区域が含まれる、橋の新設が必要</li> <li>・運搬条件:特になし</li> <li>・施設配置計画条件:残土量が多い、防災対策が必要</li> <li>・経済条件:高い</li> </ul>		

表 6-2 候補地②（長野市中条日高：びわ島）の評価結果

評価項目		評価	評価の内容
土地条件	1	土地利用	B 一部、田や畑に利用有
	2	土地所有	A 94 筆
自然条件	3	地形の状況	B 既往文献では大規模な地すべり移動体上に位置するが、空中写真判読による段丘面や谷地形の分布状況より、対象地は地すべり範囲外と推定される。ただし、沢上部に滑落崖地形あり
	4	地質の状況	C 標高 450m 付近の老人ホーム脇の急崖地形箇所新第三紀の基盤岩(溶結凝灰岩)が露出し、対象地周辺は岩や砂礫地盤を主体とするものと推定される。しかし、人工堆積物があり地質が不安定で、地下水も高いことが想定される
	5	流域面積	C 5.6 倍
	6	希少動植物の確認状況	B 【文献調査】 動物:43 種 植物:79 種 植物群落:5 群落 【現地調査】 動物:確認なし 植物:確認なし
	7	自然の改変度	B 植生自然度(7~10):27% 候補地内は、草地が多く存在し、一部には水田も存在する。東側斜面の一部には落葉広葉樹林とスギ林が混在する樹林がある
環境条件	8	水源への影響	A 候補地内またはその 1km 以内の下流域で水道用水や農業用水として取水していない
	9	放流先の状況	A 下水道放流可
	10	生活環境への影響	C 周辺の建物数:312 棟 近隣に福祉施設や老人ホームあり
	11	沿道への影響	A 0.6%
建設条件	12	防災に係る法規制の該当状況	B 地すべり危険箇所、土砂災害警戒区域に該当
	13	農用地区域の該当状況	C 農用地区域を含む
運搬条件	14	運搬効率	A 3,100 千t・km
	15	積雪の状況	A 5,100m <sup>3</sup> ・日
施設配置計画条件	16	土量バランス	B 購入土:149,000m <sup>3</sup>
	17	建設工事の規模	A 切土:1,000m <sup>3</sup> 盛土:135,000m <sup>3</sup> 購入土:149,000m <sup>3</sup> 土工量:217,000m <sup>3</sup> ※土の締固め率 0.9 とする ※土工量は((切土量+盛土量+残土量)/2) + 不足土量
	18	立地特色・防災対策	C 洪水対策:該当 斜面崩壊対策:該当 配置上の工夫:該当 構造上の留意点:該当 地下水対策:-
	19	処理水放流管等施設の整備	A 150m(下水放流)
	20	跡地の有効利用	C 0.91ha
経済条件	21	施設整備費・維持管理費	C 工事費 : 71.6 億円 (44,900 円/m <sup>3</sup> ) 維持管理費: 28.3 億円 (30 年間) 計 : 99.9 億円
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地条件: 特になし</li> <li>・自然条件: 人工堆積物があり、地質が不安定</li> <li>・環境条件: 特になし</li> <li>・建設条件: 地すべり危険箇所、土砂災害警戒区域に該当</li> <li>・運搬条件: 特になし</li> <li>・施設配置計画条件: 防災対策が必要</li> <li>・経済条件: 高い</li> </ul>		

表 6-3 候補地③（長野市中条：専納～大塩）の評価結果

評価項目		評価	評価の内容	
土地条件	1	土地利用	A	土地利用されていない
	2	土地所有	A	101筆
自然条件	3	地形の状況	C	既往文献では沢源頭部及び左岸部に地すべり地形が認められ、現地においても滑落崖地形は不明瞭なもの複数の地すべり地形が確認される
	4	地質の状況	C	斜面中の地すべり地形末端部付近は地すべり移動体の土砂化が確認され、地下水も高いことが想定される
	5	流域面積	C	5.7倍
	6	希少動植物の確認状況	B	【文献調査】 動物:43種 植物:79種 植物群落:5群落 【現地調査】 動物:確認なし 植物:確認なし
	7	自然の改変度	C	植生自然度(7~10):69% 候補地内は、落葉広葉樹林が大部分を占めており一部にスギ林が存在する。その他谷部には草地が存在する
環境条件	8	水源への影響	A	候補地内またはその1km以内の下流域で水道用水や農業用水として取水していない
	9	放流先の状況	B	供用区域まで1km程度
	10	生活環境への影響	C	周辺の建物数:301棟 近隣に福祉施設や老人ホームあり
	11	沿道への影響	A	0.6%
建設条件	12	防災に係る法規制の該当状況	C	砂防指定地、地すべり防止区域等に該当 下流に砂防堰堤あり
	13	農用地区域の該当状況	C	農用地区域を含む
運搬条件	14	運搬効率	A	3,100千t・km
	15	積雪の状況	A	23,879m <sup>3</sup> ・日
施設配置計画条件	16	土量バランス	B	購入土:199,900m <sup>3</sup>
	17	建設工事の規模	B	切土:189,000m <sup>3</sup> 盛土:350,000m <sup>3</sup> 購入土:199,900m <sup>3</sup> 土工量:469,400m <sup>3</sup> ※土の締固め率0.9とする ※土工量は((切土量+盛土量+残土量)/2)+不足土量
	18	立地特色・防災対策	C	洪水対策:該当 斜面崩壊対策:該当 配置上の工夫:該当 構造上の留意点:該当 地下水対策:-
	19	処理水放流管等施設の整備	B	1,000m(下水放流)
	20	跡地の有効利用	A	1.92ha
経済条件	21	施設整備費・維持管理費	C	工事費 : 68.1億円(42,700円/m <sup>3</sup> ) 維持管理費: 31.8億円(30年間) 計 : 99.9億円
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地条件:特になし</li> <li>・自然条件:処分場を建設することによって地形変状によるリスクが解消または低減する</li> <li>・環境条件:特になし</li> <li>・建設条件:砂防指定地、地すべり防止区域等に該当、下流に砂防堰堤あり</li> <li>・運搬条件:特になし</li> <li>・施設配置計画条件:防災対策が必要</li> <li>・経済条件:高い</li> </ul>			

表 6-4 候補地④（信濃町：野尻高沢）の評価結果

評価項目		評価	評価の内容
土地条件	1	土地利用	B 一部、田に利用有
	2	土地所有	A 70 筆
自然条件	3	地形の状況	C 関川流域の氾濫原内で、南西側の斜面は攻撃斜面となり急崖斜面が連続分布し、対象地南西側の斜面には流水を伴う大規模な崩壊地形が確認される
	4	地質の状況	C 対象地南西側の斜面には流水を伴う崩壊地形が確認され、土石流堆積物が認められる。対象地の急崖南斜面では落石が懸念される。更に人工堆積物があり地質は不安定となり、周辺からの地下水の涵養も多いことが推測される
	5	流域面積	B 2.8 倍
	6	希少動植物の確認状況	C 【文献調査】 動物:10 種 植物:38 種 【現地調査】 動物:確認なし 植物:ミクリ
	7	自然の改変度	C 植生自然度(7~10):76% 候補地内は、落葉広葉樹林が大部分を占めており一部に草地や水田が存在する
環境条件	8	水源への影響	A 候補地内またはその 1km 以内の下流域で水道用水や農業用水として取水していない
	9	放流先の状況	C 下水道供用区域外
	10	生活環境への影響	C 周辺の建物数:353 棟
	11	沿道への影響	B 3.1%
建設条件	12	防災に係る法規制の該当状況	B 土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所に該当、過去に災害履歴があり、上流にダムが建設されている
	13	農用地区域の該当状況	C 農用地区域を含む
運搬条件	14	運搬効率	C 6,100 千t・km
	15	積雪の状況	C 188,078m <sup>3</sup> ・日
施設配置計画条件	16	土量バランス	B 購入土:78,600m <sup>3</sup>
	17	建設工事の規模	A 切土:47,000m <sup>3</sup> 盛土:113,000m <sup>3</sup> 購入土:78,600m <sup>3</sup> 土工量:158,600m <sup>3</sup> ※土の締固め率 0.9 とする ※土工量は((切土量+盛土量+残土量)/2)+不足土量
	18	立地特色・防災対策	C 洪水対策:該当 斜面崩壊対策:該当 配置上の工夫:該当 構造上の留意点:該当 地下水対策:該当
	19	処理水放流管等施設の整備	C 50m(河川放流)
	20	跡地の有効利用	A 1.6ha
経済条件	21	施設整備費・維持管理費	C 工事費 : 99.9 億円 (62,700 円/m <sup>3</sup> ) 維持管理費: 23.9 億円 (24 年間) 計 : 123.8 億円
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地条件:特になし</li> <li>・自然条件:河川に隣接、人工堆積物あり</li> <li>・環境条件:特になし</li> <li>・建設条件:土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所に該当、過去に災害履歴があり</li> <li>・運搬条件:特になし</li> <li>・施設配置計画条件:防災対策、地下水対策が必要、河川放流</li> <li>・経済条件:高い</li> </ul>		

表 6-5 候補地⑤（小川村高府：梶尾）の評価結果

評価項目		評価	評価の内容
土地条件	1	土地利用	A 土地利用されていない
	2	土地所有	B 163 筆
自然条件	3	地形の状況	B 既往文献では左岸部に地すべり地形が認められ、現地においても滑落崖や側崖と思われる地形が確認できるが、最近の変動を示す変状地形はない
	4	地質の状況	C 東側緩斜面には地すべり地形が認められ、表層部は完全に土砂化する。左岸側斜面には高標高で湿地が認められ地下水位が高いことが想定される
	5	流域面積	C 4.6 倍
	6	希少動植物の確認状況	C 【文献調査】 動物:43 種 植物:79 種 植物群落:5 群落 【現地調査】 動物:アカハライモリ、モリアオガエル、コガムシ 植物:確認なし
	7	自然の改変度	C 植生自然度(7~10):85% 候補地内は、落葉広葉樹林が大部分を占めており一部スギ林や草地在存在する
環境条件	8	水源への影響	A 候補地内またはその 1km 以内の下流域で水道用水や農業用水として取水していない
	9	放流先の状況	C 供用先との高低差あり
	10	生活環境への影響	B 周辺の建物数:123 棟 近隣に神社あり
	11	沿道への影響	C 5.9%
建設条件	12	防災に係る法規制の該当状況	B 土砂災害警戒区域に該当
	13	農用地区域の該当状況	C 農用地区域を含む
運搬条件	14	運搬効率	C 4,900 千t・km
	15	積雪の状況	A 53,280m <sup>3</sup> ・日
施設配置計画条件	16	土量バランス	A 残土及び購入土なし
	17	建設工事の規模	B 切土:417,000m <sup>3</sup> 盛土:375,000m <sup>3</sup> 残土又は購入土:0m <sup>3</sup> 土工量:396,000m <sup>3</sup> ※土の締固め率 0.9 とする ※土工量は((切土量+盛土量+残土量)/2)+不足土量
	18	立地特色・防災対策	C 洪水対策:該当 斜面崩壊対策:該当 配置上の工夫:該当 構造上の留意点:該当 地下水対策:一
	19	処理水放流管等施設の整備	C 600m(河川放流)
	20	跡地の有効利用	A 1.89ha
経済条件	21	施設整備費・維持管理費	A 工事費 : 43.6 億円 (27,400 円/m <sup>3</sup> ) 維持管理費: 30.7 億円 (30 年間) 計 : 74.3 億円
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地条件:特になし</li> <li>・自然条件:処分場を建設することによって地形変状によるリスクが解消または低減する</li> <li>・環境条件:特になし</li> <li>・建設条件:土砂災害警戒区域に該当</li> <li>・運搬条件:特になし</li> <li>・施設配置計画条件:防災対策が必要、河川放流</li> <li>・経済条件:安い</li> </ul>		

表 6-6 候補地⑥（飯綱町：地蔵久保）の評価結果

評価項目		評価	評価の内容
土地条件	1	土地利用	B 植栽林あり
	2	土地所有	B 168 筆
自然条件	3	地形の状況	A 丘陵地形の尾根部に位置し、凹型斜面に崩壊地などの変状地形は確認されず安定している
	4	地質の状況	C 飯縄山を起源とする第四紀の岩屑なだれ堆積物が分布するが、斜面中に不安定な堆積物はない。ただし、基盤の堆積岩と岩屑なだれの地層境界付近は滞水している可能性があり、周辺に湿地が認められることから地下水位が高いことが想定される
	5	流域面積	A 0.3 倍
	6	希少動植物の確認状況	C 【文献調査】 動物:48 種 植物:102 種 植物群落:6 群落 【現地調査】 動物:モリアオガエル 植物:確認なし
	7	自然の改変度	C 植生自然度(7~10):60% 候補地内は、落葉広葉樹林とスギ林が混在する樹林である
環境条件	8	水源への影響	A 候補地内またはその 1km 以内の下流域で水道用水や農業用水として取水していない
	9	放流先の状況	B 供用区域まで 2km 程度
	10	生活環境への影響	B 周辺の建物数:229 棟
	11	沿道への影響	C 4.4%
建設条件	12	防災に係る法規制の該当状況	A 防災に係る法規制に該当していない
	13	農用地区域の該当状況	C 農用地区域を含む
運搬条件	14	運搬効率	A 2,600 千t・km
	15	積雪の状況	B 112,320m <sup>3</sup> ・日
施設配置計画条件	16	土量バランス	A 残土及び購入土なし
	17	建設工事の規模	C 切土:738,000m <sup>3</sup> 盛土:664,000m <sup>3</sup> 残土又は購入土:0m <sup>3</sup> 土工量:701,000m <sup>3</sup> ※土の締固め率 0.9 とする ※土工量は((切土量+盛土量+残土量)/2) + 不足土量
	18	立地特色・防災対策	A 洪水対策:— 斜面崩壊対策:— 配置上の工夫:— 構造上の留意点:該当 地下水対策:—
	19	処理水放流管等施設の整備	C 2,400m(下水放流)
	20	跡地の有効利用	A 1.86ha
経済条件	21	施設整備費・維持管理費	B 工事費 : 51.2 億円 (32,100 円/m <sup>3</sup> ) 維持管理費: 30.4 億円 (30 年間) 計 : 81.6 億円
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地条件:特になし</li> <li>・自然条件:特になし</li> <li>・環境条件:特になし</li> <li>・建設条件:特になし</li> <li>・運搬条件:特になし</li> <li>・施設配置計画条件:土量はバランスするが、土地改変量が多く、工事規模が大きい</li> <li>・経済条件:中間値</li> </ul>		

表 6-7 評価結果 (1/2)

評価項目			評価方法・評価基準	候補地①	候補地②	候補地③	候補地④	候補地⑤	候補地⑥
				長野市中条日高：入日	長野市中条日高：びわ島	長野市中条：専納～大塚	信濃町野尻高沢	小川村高府：梶尾	飯綱町地蔵久保
土地条件	1	土地利用	<p>土地利用状況により評価</p> <p>A：土地利用されていない B：候補地の一部が土地利用されている C：候補地の大半が土地利用されている</p> <p>評価内容</p>	B	B	A	B	A	B
	2	土地所有	<p>土地所有状況により評価</p> <p>A：筆数が122筆未満である B：筆数が122筆以上175筆未満である C：筆数が175筆以上である</p> <p>評価内容</p>	C	A	A	A	B	B
自然条件	3	地形の状況	<p>地形変状の有無や確からしさにより評価</p> <p>A：地形変状がない、または顕著な地形変状が確認されない B：地形変状がある C：地形変状が複数ある</p> <p>評価内容</p>	C	B	C	C	B	A
	4	地質の状況	<p>岩や砂礫地盤などの安定した地盤の分布及び軟弱層や土石流堆積物などの有無と湧水や地下水の影響により評価</p> <p>A：岩や軟岩や砂礫地盤を主体とし、軟弱な地質でなく、湧水や地下水の影響もない B：未固結の砂や泥等、軟弱な地質からなる。または土石流堆積物や崩積土などの不安定な地質要素、湧水や地下水の影響が想定される</p> <p>評価内容</p>	C	C	C	C	C	C
	5	流域面積	<p>流域面積により評価</p> <p>A：流域面積が敷地面積の2倍未満 B：流域面積が敷地面積の2倍以上4倍未満 C：流域面積が敷地面積の4倍以上</p> <p>評価内容</p>	A	C	C	B	C	A
	6	希少動植物の確認状況	<p>希少動植物（法指定種、絶滅危惧Ⅰ類以上）の生息の有無で評価</p> <p>A：希少動植物の生息・生育が候補地やその周辺で確認されていない B：文献調査により希少動植物が候補地内に生息している可能性がある C：現地調査により希少動植物が候補地内に生息している可能性が高い</p> <p>評価内容</p>	C	B	B	C	C	C
7	自然の改変度	<p>現生植生図（環境省）から植生自然度を評価</p> <p>A：植生自然度の高い植生（自然度7-10）が無く、植生自然度が中（自然度4-6）～低（自然度1-3）の植生で占められる B：植生自然度の高い植生（自然度7-10）の占める割合が30%未満である C：植生自然度の高い植生（自然度7-10）の占める割合が30%以上である</p> <p>評価内容</p>	C	B	C	C	C	C	
環境条件	8	水源への影響	<p>水道用水や農業用水としての取水の有無を評価</p> <p>A：候補地内またはその1km以内の下流域で水道用水や農業用水として取水していない B：候補地内またはその1km以内の下流域で水道用水や農業用水として取水している</p> <p>評価内容</p>	A	A	A	A	A	A
	9	放流先の状況	<p>放流先が公共下水道か公共用水域かを評価</p> <p>A：公共下水道の供用区域内である（下水道放流） B：公共下水道の供用区域外であるが、下水道放流の可能性が高い C：公共下水道の供用区域外であり、下水道放流の可能性が低い</p> <p>評価内容</p>	B	A	B	C	C	B

表 6-8 評価結果 (2/2)

評価項目			評価方法・評価基準	候補地①	候補地②	候補地③	候補地④	候補地⑤	候補地⑥
				長野市中条日高：入日	長野市中条日高：びわ島	長野市中条：専納～大塩	信濃町野尻高沢	小川村高府：梶尾	飯綱町地蔵久保
環境条件	10	生活環境への影響	周辺の家等への影響を評価 A：候補地から最も近い民家等までの距離が500m超である B：候補地から500m以内に民家等が247棟（平均）未満存在する及び生活道路への影響が低い C：候補地から500m以内に民家等が247棟（平均）以上存在する及び生活道路への影響が高い 評価内容	B	C	C	C	B	B
	11	沿道への影響	運搬車両の増加による生活環境への影響を評価 A：大型車の増加率が他候補地に比べて小さい（2.4%未満） B：大型車の増加率が他候補地に比べて中程度（2.4%以上4.1%未満） C：大型車の増加率が他候補地に比べて大きい（4.1%以上） 評価内容	A	A	A	B	C	C
建設条件	12	防災に係る法規制の該当状況	防災に係る法規制の該当状況を評価 A：防災に係る法規制に該当していない B：防災に係る法規制（砂防三法を除く）に該当している C：防災に係る法規制（砂防三法）に該当している 評価内容	B	B	C	B	B	A
	13	農用地区域の該当状況	農用地区域の該当状況を評価 A：農用地区域を含まない C：農用地区域を含む 評価内容	C	C	C	C	C	C
運搬条件	14	運搬効率	廃棄物排出量と焼却処理施設から候補地までの距離の積で評価 A：運搬効率が他候補地に比べて優れている（3,800千t・km未満） B：運搬効率が他候補地に比べて中程度（3,800千t・km以上4,900千t・km未満） C：運搬効率が他候補地に比べて優れていない（4,900千t・km以上） 評価内容	A	A	A	C	C	A
	15	積雪の状況	除雪量と除雪日数の積で評価 A：除雪量×除雪日数が他候補地に比べて小さい（61,000m <sup>3</sup> ・日未満） B：除雪量×除雪日数が他候補地に比べて中程度（61,000m <sup>3</sup> ・日以上122,000m <sup>3</sup> ・日未満） C：除雪量×除雪日数が他候補地に比べて大きい（122,000m <sup>3</sup> ・日以上） 評価内容	A	A	A	C	A	B
施設配置条件	16	土量バランス	土量バランスを評価 A：土量バランスが他候補地に比べて優れている（残土又は購入土なし） B：土量バランスが他候補地に比べて中程度（購入土又は不足土が20万m <sup>3</sup> 未満） C：土量バランスが他候補地に比べて優れていない（購入土又は不足土が20万m <sup>3</sup> 以上） 評価内容	C	B	B	B	A	A
	17	建設工事の規模	土工量を評価 A：土工量が他候補地に比べて優れている（土工量が34万m <sup>3</sup> 未満） B：土工量が他候補地に比べて中程度（土工量が34万m <sup>3</sup> 以上52万m <sup>3</sup> 未満） C：土工量が他候補地に比べて優れていない（土工量が52万m <sup>3</sup> 以上） 評価内容	B	A	B	A	B	C
	18	立地特色・防災対策	立地・防災に係る留意事項に該当する数で評価 A：留意事項が1個以下 B：留意事項が2～3個 C：留意事項が4個以上 評価内容	C	C	C	C	C	A
	19	処理水放流管等施設の整備	処理水放流管等施設の整備有無や整備内容を評価 A：処理水放流管等施設の整備延長が他候補地に比べて短い（800m未満） B：処理水放流管等施設の整備延長が他候補地に比べて中程度（800m以上1,600m未満） C：処理水放流管等施設の整備延長が他候補地に比べて長い（1,600m以上）又は河川放流 評価内容	A	A	B	C	C	C
経済条件	20	跡地の有効利用	跡地利用の有効性について評価 A：埋立終了後の平場面積が他候補地に比べて大きい（1.5ha以上） B：埋立終了後の平場面積が他候補地に比べて中程度（1.1ha以上1.5ha未満） C：埋立終了後の平場面積が他候補地に比べて小さい（1.1ha未満） 評価内容	C	C	A	A	A	A
	21	施設整備費・維持管理費	概算施設整備費（搬入道路整備費含む）及び概算維持管理費（人件費含む）を算出して評価 A：経済性が他候補地に比べて最も優れている B：経済性が他候補地に比べて平均未満（98.3億円未満） C：経済性が他候補地に比べて平均以上（98.3億円以上） 評価内容	C	C	C	C	A	B
総合評価				A	B	C	6	5	4
				6	5	4	10	10	7
選定する候補地				O					O